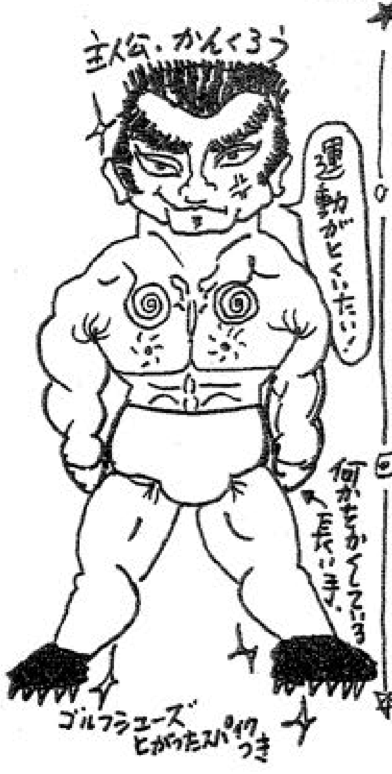
九州 じゃんがら春秋

梅雨の号

誤字はお許し下さい。

九州地方武勇伝 PartI

好評 ザ・かんなし！


主人公、かんくろう
運動がとくいだい！
何かをかくしている長い手。
ゴルフシューズ とがったスパイクつき

★かんなしとは…人間だれもが 感（かん）というものを持っている。感覚である。
これ以上こうしたら痛いだろうとか。つまり感覚である。かんなしとは 感覚がない。カンナシ。
九州の一部の地方では、べらぼうに強い奴、べらぼうにしぶとい奴、異常にアニマルな奴が生存しているのである。
できれば その強さ、すごさ、を公の場に出してグレーシー柔術と戦わせたい。
かんなしは関節わざが決まろうが、500kgのまわしげりが決まろうが ニコッと笑っているのである。そんな野郎達にこのコーナーをおくる。
じゃんがらは かんなし野郎達があたえてくれたふる里のよき想い出を つつしんでここに発表する。このコーナー、今までのコーナーとはちがい 夢とロマンと愛につつまれているのである。
人はこのコーナーを ザ・かんなしと呼ぶ♡

第1話 お寺の境内でのかんなし野郎達の戦い。

このシリーズ主人公かんくろうは実在の人物。ただし名はトクメイ。仮にかんくろうとさせて下さい。そりゃもう、強いのなんのって、中学時代から有名。顔はゴリラ顔，体はむだなぜい肉など１つもない筋肉だらけ。背は高校2年の時175cmぐらい。故にそんな大男ではないのである。 ただし、彼はザ・かんなしと呼ばれるようになっただけのものすごい才能を神様から授けられていたのである。安定性のある腰，大地をしっかりとふみしめる短い足。長いリーチ。めちゃくちゃかたい頭。うたれてもはれることのない顔。にらみのきく目。そして そして何よりもすごいのは 彼の度胸。どんなにこわいことがあっても，彼の度胸はこわいことを一瞬に楽しいことにかえてしまうのである。都合のいい頭。 そして神様は、彼の頭から、大切なものを一つとってしまわれた。それが感である。つまりかんくろうはザ・かんなしなのだった。

（ブラッシー 身長190cm 体重120kg。花火大会の夜は けんかでブラッシーで血が通っている）

S〇年〇月〇日。

かんくろうは町評判の不良ブラッシー（仮名）を寺によんだ。寺はかんくろうにとって最高のリングであった。（石がたくさんある）ブラッシーはとなり町のかんなし。いつかこの日がくるとかんくろうはどくとくの本能でブラッシーとの戦いを楽しみに待っていた。かんくろうは喜んでいた。ついついうれしさのあまり、彼はゴルフシューズをはいていた。（本人談）

か「こら！おまえ、どれだけ強いか、俺にみせてみんかい。」
ブ「……」
か「こら！きこえとっとか」「このくそたれ、うんこたれ。」
ブ「……」
か「ほんなら俺がいくばい！！」ガチャッガチャッガチャッ うりゃー！！」

この音はまぎれもないゴルフシューズの音。スパイクつきである。
ちぃさがってさらに勢いつけてのとびげり！！か「決まったろがー！！」
ブラッシーがはじめて口をきいた。ブラッシーの顔から血が。
その血を手でぬぐい、それをペロリ。ブ「うまかー」。 つづく…